



## 空想（究極の分析装置）

水谷さんからバトンを渡された筆者は、才色兼備な方からのご指名を（そんなこと滅多にないの）で光栄に思いつつ、ちょっと困った。「エッセイってどんな文章だ？」そんなの書いたことないし、とりあえずPCのBookshelfで調べてみる。エッセイ：「an essay」・・・おいおい（-; essayを引くと「随筆，エッセイ」。全くいい加減なと思いつつ、でも「（ある問題に関する短い）評論，小論」と解説されている。ふむふむ。随筆を引くと「筆者の体験や見聞を題材に、感想をも交じえ記した文章。〔現在は、新聞・雑誌から求められて掲載する、書き流しの肩の凝らない短章を指すことが多い〕エッセイ」とあり、エッセイを引くと「〔essay〕随筆。随想。」とある。まあ、上記の随筆の解説で良いのかなと理解することにした。

最近、こんなふう言葉の定義に敏感になっている。ISOの規格化などにかかわると、どうしてもそうなる。分析化学など計測分野では、「誤差」という考え方を、新たな概念を定義して「不確かさ」としている。これが広く普及しているのか疑問で、あるところでは「ちゃんとした分析を頼んだのに、不確かな数字を出すのか？」などと言われることもあるそうだ。本会でも不確かさを理解するための講習会や技能試験を実施しているが、さらなる普及は今後の課題である。

さて、書き始めるにあたりこれまでのリレーエッセイを読み返してみた。うーん、酒の話とか文系・理系の比較とか、使いたかった話題はすでに使われている。まあそうでしょうなあ。これの脱稿までに17編出ている。水谷さんからのメールでは「ネタが豊富な津越さんに」なんて書いてある。ただのプレッシャーだ。

閑話休題。筆者が理系に進んだのはマンガとテレビの影響が大である。例えば学研のひみつシリーズというマンガ本。「宇宙のひみつ」とか「からだの～」とか、理系要素に富んでいた。テレビのほうは「宇宙大作戦（スタートレック）」が好きだった。スポックのトライコーダーは、主成分から微量成分、化学形態、構造、なんでも非接触で分析できる。でも、宇宙歴400年というから350年ぐらい先の話である。そういえば、宇宙戦艦ヤマトのアナライザーロボットも同様の性能を持つが、設定年代はいつだったのだろうか。他にもいろいろなSFものを見ていた。映画スターウォーズも好きである。何が魅力的かという点、先のトライコーダーやライトセイパーのようなアイテムである。アイテムつながりで「スパイ大作戦（ミッション：インポッシブル）」や「007（ダブルオーセブンと読む）」も好きで、007はシリーズすべてをDVDで持っている。「カジノロワイヤル」が2作あると知る人も少ないだろう。古いほうは筆者の生

まれた1967年の製作で、実はパロディーである。同年に公開された本家のシリーズは第5作「007は二度死ぬ」で、日本が主な舞台になる。なにか縁を感じる。アイテムだが、「007ダイアナザーデー」では透明になる車が登場する。「Q」の説明では、点在するマイクロカメラの映像が発光性ポリマー塗装のボディに投影され透明に見える、という。これを光学迷彩という。すごい、さすがボンドカー、という人は多い。が、筆者の見方は他人とちょっと違うらしい。カーチェイスの中でボンドカーはマシンガンで撃たれ、光学迷彩装置が故障して実体が可視化する。が、しばらくすると、なんと自動で修復されて、機能が復活する。この「自動で直る」というほうがよっぽどすごいと筆者は思うのである。自動で直るところか、日々のメンテナンスや定量的ための校正が、現在の分析装置には必要である。天秤だと校正分銅を内蔵し自動校正するものもある。分析装置で自動校正するのは、現状の各種分析法では難しい。しかしながら、これはトライコーダーに通じる第一歩と思ひ、その興味は持ち続けている。マトリックスの分離等、分析における前処理は「当然に必須のもの」ではなく「仕方なくやるもの」と考え、前処理の不要な分析法を空想する。ついでに故障が自動で直ると良いが、トライコーダーもそこまでの機能は備わっていない。

さて、この企画の「言い出しっぺ」上原先生と雑談していた際、「私には友達がいない次に回せないの、つまりはリレーエッセイの最終回を担当しましょう」という会話をしたことがある。が、ホントにこれで最終回・・・と、勝手に宣言できない。お昼の某番組の「友達の輪（テレフォンショッキング）」のようである。これも開始当初は司会のタモリが「いつか、つかさちゃんに回る」と言っていたが、すでに出演しており、それでも続けている。筆者が最終回と言っても、「リレーエッセイ2」とか看板が変わり、続くだろう。というか、全会員に戻るまで（会員がこれ以上減らないとして12人/年だとざっと600年近くかかるが）続けて欲しい。そのときの最終回は、ぜひまた執筆したいと思う（笑）。ま、とにかく、本会会長が提案している「人生談話会（仮称）」の方に、バトンタッチの意外性も狙いつつ、お願いしようかと考えた。これの執筆中に開催された討論会にて、そのN先生に「君もこれだ！」とご推薦を受けた「ヒゲ人生談話会」がある。まとめ役の先生と「ダンディー人生談話会」とか呼んで欲しいなどとお話していたが、そのご本人、まさにダンディーな脇田久伸先生（福岡大）にお願いしました。これで、本コーナー執筆者の年齢層も広がりますよ！

〔産業技術総合研究所計測標準研究部門 津越敬寿〕